

東京藝術大学 先端芸術表現科 卒業 | 修了制作 2010

Tokyo University of the Arts Inter-Media Art Graduation Works 2010

誰とも知れぬ〈ひと〉と、得体の知れぬ〈もの〉と、出会う〈こと〉。それは私たちの所属する先端芸術表現科の中で、日常的に起こっていることです。科の英語名が示すように、出自や文脈、興味も表現のテーマも異なる個人が、時に交差し、時に衝突し、時に融和する。そのような出会いの場として、この学科は機能しているのです。だとすれば、こうした科のあり方のすべてが凝縮されて提示される機会である卒業制作展・修了制作展が、一部の狭いコミュニティの中でだけ享受されるものであってはならない。私たちはそう考えました。そこで最初に行ったのは、タイトルから「展」の文字を消すことです。特定の言葉によって表現の枠組みを制限するのではなく、作る側の多様性も見に来る側の多様性もひっくるめて受け入れることができる、大きな器を用意することが必要だと考えたのです。もちろん、枠組みの拡張はタイトルだけではありません。上映

形式をとる作品の為にシアター企画や論文・ポートフォリオ閲覧場所作りなど、会場構成にもメスを入れていきます。さらに今年は、広報のあり方を根本的に見直しました。過去の広報先の整理と新たな広報先の開拓——作り手たち・運営者たちの制作過程での思考や視点を公開していく広報ブログなど、毎週更新・情報満載のウェブサイトの作成——開催地横浜でのピラ配りをはじめとする広報イベントの実施、美術の枠を越えた多様な文化発信プロジェクトの可能性を考えるフォーラムの開催——すべてはこの文章を読んでいるあなたと顔を合わせ、言葉を交わすための試みです。私たちの目指す「卒業 | 修了制作2010」は、出会うはずのなかったものたちが一堂に会し、さらにそれがシャッフルされる場所なのです。“ぜひ一緒に、PARTYを楽しみましょう。”これが私たちの掲げるコンセプトです。

1/16(sat) - 24(sun) | 11:30-19:00

BankART Studio NYK

東京藝術大学 先端芸術表現科卒業 | 修了制作2010
Tokyo University of the Arts Inter Media Art Graduation Works 2010

主催：東京藝術大学先端芸術表現科卒業 | 修了制作2010実行委員会

協力：BankART 1929

会期：2010年1月16日[土]-24日[日] (会期中無休、入場無料)

会場：BankART Studio NYK

開場時間：11:00-19:00(最終日のみ17:00まで)

お問い合わせ：[Tel]090-3960-0801 / [Email]sentan2010@gmail.com

ウェブサイト：卒業 | 修了制作2010公式ウェブサイト：<http://www.sentan2010.com>

先端芸術表現科公式ウェブサイト：<http://www.ima.fa.geidai.ac.jp>

オープニングパーティ：1月16日[土]18:00より

【フォーラム】

「ProjectとProjectors —— “投げかけ”の未来像——」

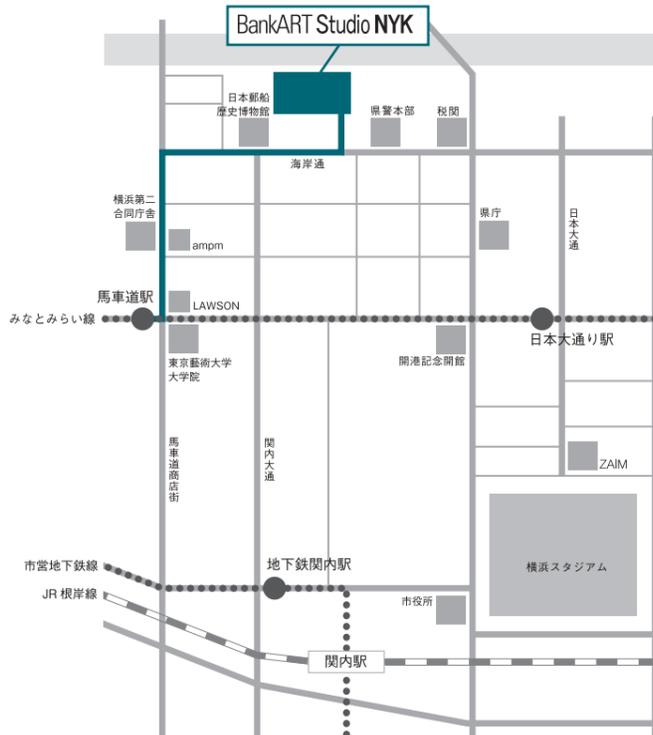
2010年1月23日[土] | 15:00- 入場無料

近年各地で行われるようになった地域型アートプロジェクトや、廃校などのリノベーションによるアートのスペースの設立は、試行錯誤の段階であった時期を過ぎ、いまや社会に広く認知され、定着してきています。またこうした波を受けて、従来からの美術ギャラリーにもすでに様々な変化が見受けられます。このような状況を、私たちはどのように捉えるべきか、その意義や問題点、そこで脈動している新しい試み、美術の枠を越えた多様な文化発信プロジェクトの可能性を考えることは急務であり、2010年という、新たな10年の始まりの年はその絶好の機会と言えるでしょう。

先端の持つ多彩な人材ネットワークを中心に、展覧会・プロジェクトというキーワードに異なる職業性や視点、意識を持って携わっている方々をパネリストにお招きし、会場となる「卒業 | 修了制作2010」もまた対象とされていくような議論の場を展開していきます。フォーラムを開催することで、来場者の方々に、鑑賞のみでなく、イベントそのものに託されたコンセプトや問題提起の一端を生で体験して頂ける参加のチャンスになればと考えています。

パネリスト：先端芸術表現科現教職員に加え、数名の外部ゲストを予定。

※詳細はウェブサイトをご覧ください→



交通案内：横浜みなとみらい線「馬車道駅」6出口[万国橋口]から徒歩4分
BankART Studio NYK / 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9

www.sentan2010.com



TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS
INTER MEDIA ART
GRADUATION WORKS 2010

東京藝術大学 先端芸術表現科 卒業 | 修了制作 2010

Tokyo University of the Arts Inter-Media Art Graduation Works 2010

1/16(sat) - 24(sun)

BankART Studio NYK

卒業 | 修了制作2010を巡るキーワード

IMA [Inter-Media Art]

「先端芸術表現科」と聞いても、一体何をしている学科なのかよくわかりませんよね。しかし、それが英語表記の「department of Inter-Media Art」になるともう少しイメージしやすくなるかもしれません。「Inter-Media Art」とはジャンルにとらわれずにメディアを自由に横断していくアートのことです。

従来の美大・芸大では扱うメディアによって各科が編成されてきました。しかし本学科ではあらかじめ扱うメディアは定められていません。学生はどのようなメディアを用いるのかということから考え始めます。これまで映像作品を制作していた学生が、次の作品では身体表現を始めることも起こります。卒業生のなかには、「ラップ」をすることで卒業制作とした人もいました。また、絵を描くにしても、「何を用いて描くのか」というところから考え始めます。大きなパーカーを自分で作って、それをキャンパス代わりに絵を描く人もいます。先端では、扱うメディアにとらわれることなく、芸術の持つ意味そのものを「表現の問題」として問いかけていきます。そして、〈美術〉という領域を超えていくような、横断的な創造の場をつくりだそうとしています。



01



08



09



10



11



12



02



03



04



05



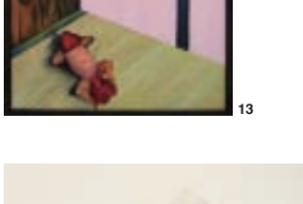
06



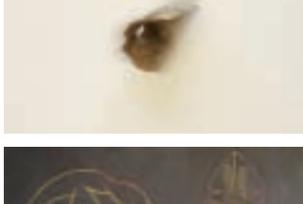
07



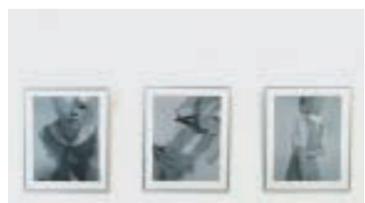
13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26

27



24



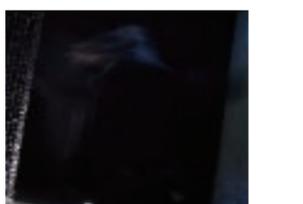
25



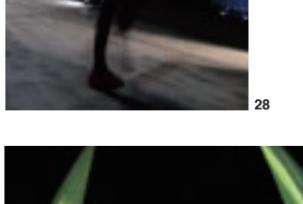
26



27



28



29



30



31



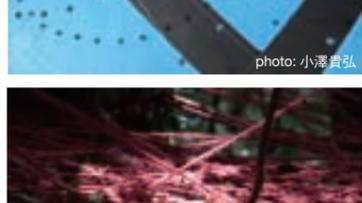
32



32



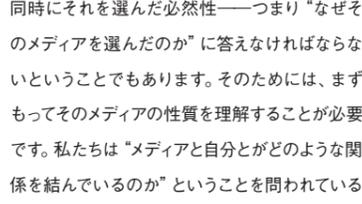
33



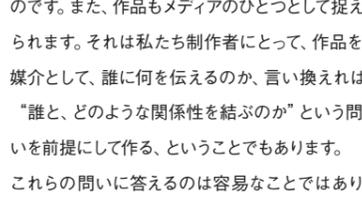
34



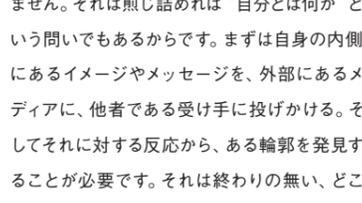
35



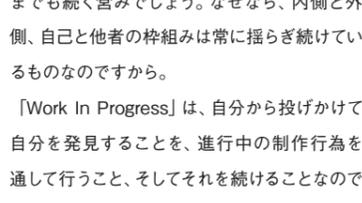
36



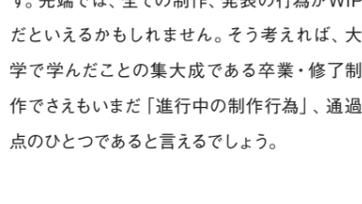
37



38



39



40



35



36



37



38



39



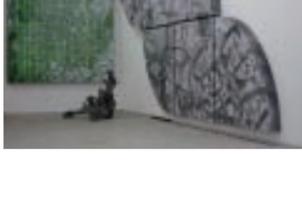
40



41



42



43



42



43



44



45



46



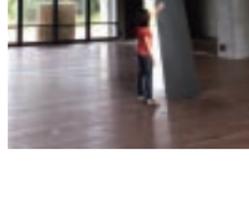
47



48



49



50

WIP [Work In Progress]

メディアを自由に選択・横断するということは、同時にそれを選んだ必然性——つまり“なぜそのメディアを選んだのか”に答えなければならないということでもあります。そのためには、まずもってそのメディアの性質を理解する必要があります。私たちは“メディアと自分とがどのような関係を結んでいるのか”ということを問われているのです。また、作品もメディアのひとつとして捉えられます。それは私たち制作者にとって、作品を媒介として、誰に何を伝えるのか、言い換えれば“誰と、どのような関係性を結ぶのか”という問いを前提にして作る、ということでもあります。これらの問いに答えるのは容易なことではありません。それは煎じ詰めれば“自分とは何か”という問いでもあるからです。まずは自身の内側にあるイメージやメッセージを、外部にあるメディアに、他者である受け手に投げかける。そしてそれに対する反応から、ある輪郭を発見することが必要です。それは終わりの無い、どこまでも続く営みでしょう。なぜなら、内側と外側、自己と他者の枠組みは常に揺らぎ続けているものなのですから。

「Work In Progress」は、自分から投げかけて自分を発見することを、進行中の制作行為を通して行うこと、そしてそれを続けることなのです。先端では、全ての制作、発表の行為がWIPだといえるかもしれません。そう考えれば、大学で学んだことの集大成である卒業・修了制作でさえもまだ「進行中の制作行為」、通過点のひとつであると言えるでしょう。

PTP [Project The Projectors]

先端は発足から現在まで、他科のように作品を提出するだけでなく、参加する学生たちが主体となって、作品発表の会場探しや、展覧会コンセプトやタイトルなどの議論を行い、卒業・修了制作展を企画・運営してきました。

“〈もの〉を作る”だけではなく、“〈こと〉を起こす”、というわけです。また個人の制作においても、作品が出来上がるまでに生まれた自分とメディア／素材との関係性を表現行為の重要な要素とします。それは作品制作・発表というプロセスの中で、メディアや素材との間に、また作り手と受け手との関係性に“〈こと〉を起こそうとする”行為だと言えるでしょう。

「Project The Projectors」とは、学生たちが自身の表現を媒介にして、外部に対して関係を持つとすること＝“〈こと〉を起こそうとする”行為の表明として、先端の学部2期生によって付けられた卒業・修了展のタイトルです。Projectには、「企てる」や「投じる」といった意味があります。まさに作品を制作、発表する学生たちは、“〈こと〉を起こそうとする者たち (Projectors)”であり、卒業・修了制作は“〈こと〉を起こそうとする (Project)”ための場なのです。



47



48



49



50



51

先端芸術表現科という科が新設されてから10年が経過し、教員の半数近くが入れ替わって、入学してくる学生たちの傾向にも変化が見られるようになってきました。私たち学生自身の実感する最も大きな変化は、先端の新設当時に重視された「メディアやジャンルの自由な横断」というよりは、用いるメディアを限定した上で、そのメディアについての知識や技術を重視し、それらのコンテキストに対して意識的であろうとする学生が増えてきたということです。この変化は、科の教育方針の変遷と密接に結びついたものなのか、あるいはより大きな、美術を取り巻く社会情勢の変化に伴うものなのか、それとも単にここ数年入学してきた学生の偶然的傾向に過ぎないのか――。いずれにせよ、今、あらためて先端がどうあるべきなのか、様々な出自と傾向をもつ学生・教員が共有する地平を、いかに見出していくのが、切実なテーマとなりました。

今年度、私たちはこの問題に答えるべく、これまで先端の伝統となっていた「PTP」というタイトルを外しました。その上で一から先端について、展覧会について、あるいは卒業・修了制作展という制度について考え直そうとしています。しかしながらそれは、私たちの「卒業|修了制作2010」から「PTP」という概念自体を払拭しようという態度ではなく、むしろ「PTP」の本来的な理念を継承するための行為であると言えるでしょう。だからこそ、私たちは「PTP」の表している事柄を、私たち自身の言葉で語り直さなければならないのです。



photo:Chori 52



53



54



55

01_中西祐輔 NAKANISHI Yusuke
「a circulation」2009
■見立て、方便
□zivago_fresh@yahoo.co.jp

02_藤井遼介 FUJII Ryohsuke
「明るい部屋で」2009
■映画
□owen_no_koyubi@yahoo.co.jp

03_安藤理美 ANDO Rumi
「dream islands」2009
■写真
□http://rumiando.web.fc2.com/

04_老田真衣 OITA Mai
「トドカッ」2009
■絵画、イラスト
□http://oitama.com/

05_石橋彩 ISHIBASHI Aya
「メリーさんのさくら(部分)」2009
■絵画

06_浅井健太 ASAI Kenta
「Tree」2008
■インスタレーション、パフォーマンス

07_西口友人 NISHIGUCHI Tomohito
「ゴミ男」2008
■映像
□oo0ppqq0oo@yahoo.co.jp

08_蘭 ZUI
「目を背けても見えてしまうモノ」2009
■立体
□http://ninomono.zw-zw.com/

09_柏崎由璃香 KASHIWAZAKI Yurika
「現代の武器／穴埋め機」2009
■インスタレーション
□powered.by.atom0422@gmail.com

10_伊福紗代 IFUKU Sayo
「アリヴェデパール、あるいは、冬の星座の翻訳」2009
■インスタレーション、写真、絵画
□http://12934.web.fc2.com/

11_渡邊実穂 WATANABE Miho
「ウォーターメロンクラッシャー」2009
■その時々
□http://watermeloncrusher.web.fc2.com/index.html

12_田口佳那子 TAGUCHI Kanako
「HAND」2007
■平面

13_秋元今日子 AKIMOTO Kyoko
「小人の部屋」2007
■絵画を中心に制作
□http://www.geidai.ac.jp/~s1106198/

14_坂田希究 SAKATA Kikyū
「風の音」2008
■サウンドアート、メディアアート

15_高野久美子 KONO Kumiko
「切断、再生、循環」2009
■ドローイング、文章
□ishibatake@hotmail.co.jp

16_青木禅 AOKI Shizuka
「rei III」2009
■写真、グラフィック、絵画
□bitty@jcom.home.ne.jp

17_高島淳 TAKABATAKE Jun
「無題」2009
■本、映像、インスタレーション

18_彩蓮 SIREN
「メリーゴーランド」2009
■パフォーマンス
□aya_a_go_go@yahoo.co.jp

19_清野仁美 SEINO Hitomi
「波多野物語 -風人なるものに関する収集-」2009
■インスタレーション、物語り

20_岩名慶子 IWANA Keiko
「untitled」2006
■ミクストメディア

21_潘逸舟 HAN Ishu
「君」2009
■インスタレーション

22_山田萌 YAMADA Mayu
「untitled」2008
■立体
□http://ubsl.web.fc2.com/

23_北澤理恵 KITAZAWA Rie
「怪獣のパラードをモウイチド」2009
「STW(静かなる抵抗への宴)」2008
■演劇、小説

24_竹内千尋 TAKEUCHI Chihiro
「もしもし」2008
■立体

25_志摩薫子 SHIMA Kaoruko
「one man show」2006
■絵画、ミクストメディア
□http://members.jcom.home.ne.jp/smith03/

26_川合穂波 KAWAI Honami
「エビタフ」2009
■写真、映像、絵画
□http://www.geocities.jp/seifen_schale/

27_中村浩司 NAKAMURA Kouji
「はざま#2」2009
■映像インスタレーション
□kouji@fuga.ocn.ne.jp

28_永田勝貴 NAGATA Yoshitaka
「高速回転」2008
■台本、それに伴うパフォーマンス

29_武藤麻衣 MUTO Mai
「1/120」2008
■映像
□gdmbd684@ybb.ne.jp

30_木村泰平 KIMURA Taihei
「1/10,000」2009
■立体
□http://ubsl.web.fc2.com/

31_後藤怜亜 GOTOH Lea
「ゴドーを待ちながら」2009
■音声放送やパフォーマンス
□http://tyoutinkensa.net/

32_佐々木友輔 SASAKI Yusuke
「ぼろ ghosts」2009
■映画
□http://qspds996.exblog.jp/

33_下平千夏 SHIMODAIRA Chinatsu
「声の行方」2009
■ミクストメディア
□simo1_41421356@yahoo.co.jp

34_石塚つばさ ISHITSUKA Tsubasa
「森の座」2008
■インスタレーション
□http://d.hatena.ne.jp/tsubasa_ishitsuka/

35_文谷有佳里 BUNYA Yukari
「drawing 生きた眺める風景」2009
■ドローイング
□http://ubsl.web.fc2.com/

36_黒川潤 KUROKAWA Jun
「DREAMING」2008
■ビデオ・インスタレーション
□http://web.me.com/studiojunk/

37_間瀬朋成 MASE Tomonari
「Tree of Life」2009
■絵画、インスタレーション

38_勅使美千代 TESHII Michiyo
「milk」2007
■インスタレーション
□teshi_mjp@yahoo.co.jp

39_上原耕生 UEHARA Kouo
「untitled」2009
■インスタレーション、プロジェクト等
□ueharakouo@yahoo.co.jp

40_高橋あい TAKAHASHI Ai
「ヤマ ムラ ノラ」2009
■type C-print
□takahashia.m@gmail.com

41_松下徹 MATSUSHITA Toru
「ケレン」2009
■平面、インスタレーションなど

42_生形三郎 UBUKATA Saburo
「Multistory scenery」2009
■電子音響
□s3260@hotmail.com

43_小田原のどか ODAWARA Nodoka
「↓」2008
■彫刻

44_岩井亜希子 IWAI Akiko
「sound park」2009
■サウンド、パフォーマンス、パブリックアート
□sons.et.couleur@gmail.com

45_李曼河 LEE Minha
「イノリをマトウ」2009
■インスタレーション
□minmin.yama@gmail.com

46_金徳喜 Kim Duk-hee
「Falls」2009
■インスタレーション

47_八幡亜樹 YAHATA Aki
「ミチコ教会」2008
■映像、写真など
□spiral_py@yahoo.co.jp

48_上田尚宏 UEDA Takahiro
「Model_001」2009
■立体、インスタレーションなど
□http://www.takahiro-ueda.com

49_笠島俊一 KASAJIMA Shunichi
「untitled」2009
■立体、インスタレーション
□http://www.skasajima.com

50_藤本涼 FUJIMOTO Ryo
「live on air(hoodgirl)」2009
■写真
□http://members3.jcom.home.ne.jp/moryo/

51_花形愛音 HANAGATA Aine
「トワイライト・シーン」2009
■写真

52_大西健太郎 ONISHI Kentaro
「まち」2009
■パフォーマンス
□onishikentaro@hotmail.com

53_鄭萬英 JUNG Manyoung
「Soundcube2.0-絵を描く機械」2009
■インスタレーション、映像、音
□http://young.isfreeweb.com/

54_明石雄 AKASHI Yu
「stormy/disoder」2009
■絵画、写真
□nyanchuudanyan@hotmail.com

55_金川晋吾 KANAGAWA Shingo
「father」2008-
■写真、映像
□http://d.hatena.ne.jp/kanagawashingo/

■主に使用するメディア
□mail/HP address